

# 黒部川 下ノ廊下

2017年10月7日(土) ~ 9日(月)

L: 柴田 吉田、世田、久保田J、宮本

10月7日(土) 天気: 雨

扇沢からトローリーバスに乗って黒部ダムを目指します。天気はどんより曇っていましたが連休初日ともあり朝から行列ができていました。観光客というより登山客が多く、ザックを背負った人たちがトローリーバスは一杯になっていきました。



黒部ダムの放流

ダムから内蔵助谷出合までは下りが続き、下ノ廊下ルートと内蔵助平へのルートの二手に分かれます。今回予定していたルートどおり内蔵助平へと向かいましたが途中いくばくも行かないうちに私が体調不良で気分が悪くなってしまいました。原因は恐らく睡眠不足とここ2週間ほど仕事でストレス過多になっていたせいで

す。自分の問題で折角行くはずだったルートを替えざるを得なくさせてしまい申し訳ない気持ちでした。初日は一度引き換えし、明日の天候の回復を待って下ノ廊下へ進み阿曾原温泉で2泊目、3日目に樺平に抜けるルートに変更になりました。その為初日の残りの時間は殆ど寝て過ごし、その間に世田さんと純子さんと吉田さんが飲み物を調達に行ってくださいました。炭酸ジュースを買ってきてくれてありがたく飲みました。その日の夜ご飯はほうとう鍋で、カボチャも甘く美味しかったです。山でほうとう鍋が食べられるなんて!

7:00 黒部ダム

8:15 内蔵助谷出合

9:55 1420m引き返す



明け方 西に沈む月

10月8日(日) 天気：晴れ

月光が照らす薄明りの中出発しました。夜の間は時折雨音が聞こえたため、晴れるか心配していましたがテントの外に出てみると月明かりとたくさんの星が見えたので今日はよく晴れそうだなとうれしくなりました。ヘルメットをかぶりヘッドライトをつけました。しばらく進むと明るくなり、行く手の先の山には朝日が当たっているのか紅葉も相まってオレンジ色に輝き始めました。

時折川の反対側に雪溪が見られるようになりました。表面には茶色の泥や枯葉が被っていてケーキのティラミスのようなです。(写真右下)



崩れたスノーブリッジ

面白がっていられたのも東の間で黒部別山谷でとうとう雪溪に行く手を阻まれました。雪溪に上がるための梯子やその先にはロープも設置されていましたが午前中ということもあり、雪溪表面はがちがちでつるつとすべります。リーダーの柴田さんが先に行き、絶対にロープを離さないようにと注意しましたが、万が一手を放したらツーツと滑って黒部川にドボンと思うと先に進むのが恐ろしくなりました。結局細引を体に巻いてカラビナをつけ設置されているロープにカラビナを通して万が一手を放しても最悪落ちることがないようにして進みました。それでも滑るのが嫌だったので座ったままイザる様に先に進みました。思い切って立ち上がると足が生まれたての鹿のように震えました。が、意外に立てることが分りホッとしました。この山行で唯一怖かったところでした。



**つるつる雪溪**

ここから先に進むにつれて日差しも強く温かかったのでカッパのズボンを脱ぎましたが、脱いだとたんいくつかの渡渉があり、カッパを脱いだことを後悔しました。ちょっとした滝のようになっている個所もあり、親切にも傘が2つ用意されていましたが、2本とも滝の向こうに置かれていました…よく晴れていたおかげですぐに乾きました。



**傘をさしても濡れる**

十字峡には橋があり、一人ずつ渡るように注意書きがされています。この辺りの景観はとても美しいです。橋の下の川がよく見えて水の流れを真上から見る事が出来ます。



**下の川が見えるつり橋**



**十字峡の景観**

半月峡、S字峡と眺めの美しい廊下の景色が過ぎるとつり橋が現れました。ここを渡りしばらく行くと仙人ダムです。ダムの中を通ります。線路も引かれていました。線路のあるトンネルからは温泉のにおいと熱気が漂っていました。高熱隧道でした。



### 不思議なトンネル

後に知りましたが第三ダム建設の際この熱でダイナマイトも自然発火したようです。さらに不思議なトンネルを抜け関西電力の宿舎横を通り、気を許していたら急登が待っていました。ずっと水平、もしくは下りばかりの道を歩いていたのでしんどさが倍増しました。前に行く吉田さんが重いザックを背負いながらスイスイ進むので、ただ追いかけて登るほかありません。後で吉田さんに聞くとしんどくて泣きそうになったとのこと。いやいや泣きそうなのはこっちでした。暫くの急登のあとは水平な道と下り道でした。阿曾原温泉小屋の屋根が間近に見えた時、温泉と炭酸ジュースのことしか浮かびませんでした。テント場はぼちぼち張られている程度でしたので、雨と滝で濡れたものを乾かしつつ、平らな良い場所にテントを張りました。そのあとは温泉です。PM8時前までは奇数時間と偶数時間で男女入れ替えで温泉に入れます。テント場から5分くらい下ります。露天風呂には牛乳石鹸がいくつか置かれていました。

山行中に汗が流せるのがたまらなくうれしかったです。お湯もいいお湯です。湯気の上がる囲いのされた謎の洞窟から引かれているパイプでお湯は供給されています。結構な熱さです。



### 阿曾原温泉♪

夕食のご飯はサバカレーでした。ご飯もおいしく炊けていて最高です。世田さん曰くサバカレーのポイントはサバ缶は水煮ではなく味噌煮にすることでカレーにコクが増すとのことです。さらに最後に山椒をふることでした。山椒のアジアンな香りがサバとよく合いました。これは家でも作りたいです。夜ご飯を食べるころにはテント場が賑わってきました。外に出るともう通路にもテントが張られトイレに行くのも難儀なくらいでした。個人用の小さなテントがたくさん張られていました。

5：10 出発

7：24 別山沢出合

9：02 十字峡

11：11 半月峡

12：06 仙人谷ダム



12:30 阿曾原温泉

10月9日(月) 天気:晴れ

この日もヘッドランプをつけて朝5時出発です。薄暗い中進みました。最初はずいぶん登らされましたが次第に水平な道に変わりました。昨日の下ノ廊下と同じように岩盤をくり抜いたり、橋が架かっていたりする道です。こちらの水平歩道の方が、幾分整備がしっかりしているようにも思えます。折尾谷の小さなトンネルで滝の裏を通り、さらに進むともっと長いトンネルが現れました。ここも滝を回避して造られているトンネルです。ヘッドライトが必要な長さで暗さです。トンネルの中は水が流れていて靴が少し濡れました。昨日に比べると登山客も多く抜いたり、抜かされたりしながら進みました。それでもすれ違いのできる箇所は多く、危ないところはありませんでした。



よく整備されている水平歩道

檜平の駅で始発の電車は9時16分くらいでした。これに乗る思惑で、柴田さん

が後半すごい速さで進むのでついていくのが大変でした。下山途中の道標で間に合わないことが分り諦めてくれたのでホッとしました。最後にきて転ぶのだけは嫌だなと思っていました。檜平9時37分発の電車に乗ることが出来ました。ここから新幹線を含む計4本の電車と1本のバスを乗り継いで扇沢に戻りました。帰りに安曇野で寄った吉田さんが教えてくれたかわせみという定食屋さんのご飯がおいしかったです。

5:00 出発

07:15 大太鼓

09:20 檜平

(宮本 記)